

H31学力向上アクションプラン(九重町)

目標及び指標

- 【目標】「生きる力」を育むための「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学ぶ意欲や態度」の育成
全国学力学習調査において、全ての教科で全国平均を越える。
- 1 全ての教科において、下位層児童・生徒の割合を減少させる。
 - 2 全教職員がB問題等の「活用する力」を意識した授業実践を行う。
 - 3 授業に意欲的に取り組む児童生徒の割合を増やす。

達成指標	取組指標
町学力調査の小5国語・算数 中1国語・数学において正答率60%未満の児童生徒の割合を30%減少。	放課後を活用したの補充学習に10日以上取り組む教員100% 支援を必要とする児童生徒の「個別の指導計画」の作成と学期1回以上の見直しの実施100% 支援を必要とする児童生徒の「教育支援計画」作成率を70%以上
家で授業の予習や復習をしている割合を全国以上。	宿題についての検討と見直しを学期に1回以上実施した学校(7/7)
町学力調査の小5国語・算数 中1国語・数学において活用問題の正答率を全国平均以上。	学校図書館を活用した授業に年3回以上取り組む教員100% 活用力を意識した校内授業研を年3回以上実施した学校(7/7)
大分県学力定着状況調査の「どれくらい好きか」の問いにおいてすべての教科で全国を上回る。	主体的で対話的な深い学びになるような授業課題についての研修を学期1回以上実施した学校(7/7) 課題解決のために小集団を活用した授業に取り組む教員100%

行動計画

①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想と実施による質の向上について

- 町による学力調査の実施
小学校1年～6年に対して学力調査で学力定着状況を把握し、授業改善と個別の指導を行う。
・小学校1・2年(国語・算数) 3・4年(国語・算数・理科) 5・6年(国語・算数・理科・社会)
・小学校4年生以上はフォローアップシートを活用した指導の徹底
- 特別支援教育支援員の配置と個別の指導計画の作成と学期1回以上の見直しの実施
支援を必要とする児童生徒への支援のために特別支援教育支援員を配置すると同時に適切な支援を行うために個別の指導計画の作成と短期サイクルで見直しを行う。
- 知識構成型ジグソー法を用いたアクティブラーニングについて研修会の実施(年2回)
活用力を育成するために、ジグソー法を用いた授業改善に係る研修とグループ・ペア活動の充実のために課題設定の研修を実施する。

②「中学校学力向上対策3つの提言」の3つの項目(6つの視点)の実施に関して

- 新大分スタンダードの徹底
- 町による学力調査の実施
中学校1・2年に対して学力調査で学力定着状況を把握し、授業改善と個別の指導を行う。
・中学校1・2年生(国語・社会・数学・理科・英語)・フォローアップシートを活用した指導の徹底
・データベースを活用した補充学習と宿題の充実・ボランティアを活用した補充学習の実施
- 習熟度別指導の積極的な導入
習熟の程度に応じた適切な指導を行うために、数学での習熟別指導、外国語の少人数指導
・習熟別指導を推進する。
- 教科指導力向上の仕組みの構築
同じ教科の指導について、教員間で指導方法を共有するためにタテ持ちを基本とした教科指導を推進する。
- 生徒と共に創る授業の推進
授業改善を推進するために、生徒とともに学習目標の設定し、生徒による授業評価を行う。

③小学校教科担任制の推進に関して

- 東飯田小・野上小・南山田小において加配を活用した教科担任制について実施に向けた検討を行う。

④新学習指導要領の実施等に関して

- ※小学校外国語への対応(必須)
- 小学校外国語指導の充実のためにコーディネーターを配置し授業支援を行う。○イングリッシュキャンプの実施(小学校3～6年生対象)(予定)
- ※学校の教育目標の明確化と、総合的な学習の時間との関連等について
- 総合的な学習の時間と教科等の関わりについて単元配列表を見直す。
- 地域や保護者と学校教育目標を共有するために、学力向上会議を活用した熟議の実施
- ※地域とともにある学校づくり(コミュニティー・スクール)について
- 文部科学省指定「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」を活用し、小学校の複数校で運営協議会を設置する。
- ※ICTの活用について
- 情報活用能力の育成とプログラミング教育の推進するために、全小中学校へのタブレット機器の導入を行う。
- 教職員の活用を促進させるために、操作や活用方法の研修会を実施する。また、保守や機器の点検のためにサポーターを派遣する。